

2017年
2月号

カトリック笹丘教会 教会 ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標…「いつくしみから踏み出す第一歩」
小教区今年度のテーマ…「届けよう、神のいつくしみを共に」

先に愛して下さった神様



主任司祭 遠山満

ヨハネの第一の手紙の中には、神様が私たちが先に愛された、ということが繰り返し述べられています。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちが愛して、私たちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります」(4: 10)。「私たちが愛するのは、神がまず私たちが愛して下さったからです」(4: 19)。結論として、次のように述べられています。「愛する者たち、神がこのように私たちが愛されたのですから、私たちが互いに愛し合うべきです」(4: 11)。私たちの教会の「一人一役運動」も、私たちが互いに愛し合う、具体的な方策です。私たちは、まず神様が私たちが愛して下さったことを心に留め、その愛に答えるような形で、一人一役の奉仕に取り組む必要があると思います。

ところで、皆さんは、信仰生活のどのような場面で、神様の愛を感じられるでしょうか。教会に入って、聖櫃の前で祈られる時でしょうか。聖書を読んで、み言葉に触れる時でしょうか。貧しい人たち、小さな人たちとの触れ合いの時でしょうか。美しい自然の中にいる時でしょうか。カトリック教会には、神様との直接的な触れ合いの場として、秘跡が設けられています。ミサ、および赦しの秘跡は、その特別な場です。皆さんは、ミサの典礼の中で、神様の美しさを感じられることはあるでしょうか。あるいは、赦しの秘跡の中で、神様の愛を感じられたことはあるでしょうか。秘跡に与る時、私たちは、私たちが先に愛して下さった神様のことを観想するように致しましょう。そして、その愛に答えるような形で、教会の奉仕に取り組んでまいりましょう。

皆さんの中には、次のようにおっしゃる方もあるかもしれません。「秘跡に与っている時にも、これまで神様の愛を感じたことのない人はどうするのですか」と。確かに、そのような方もいらっしゃるかもしれません。そのような場合、まず、神様の愛を感じることができるよう、その恵みを願いましょう。神様は、誠実な方です。私たちが、正しい意向で祈る時、その祈りを退けられることはありません。その愛に支えられて、教会の奉仕に専念して参りましょう。

開催日時：2017年2月12日（日）11：40～12：30

開催場所：信徒会館

司会：川原

書記：牧山



1. 松尾太助祭様の司祭叙階関連について

(1) 叙階式参加希望者募集

貸切バス希望者とそれ以外に分けて、引き続き参加希望者を募る。

(2) 叙階お祝いの品、献金

信者会から緑色の祭服・ストラ、カリスを贈る予定。費用は信者会予算（14～15万円）と献金で賄う。維持費会計からも補助が可能か相談する。

(3) 霊的花束

呼びかけを行う。以前笹丘教会で司牧実習をされたロイ助祭（広島教区）も3/20に岡山教会で司祭に叙階されるので、併せて霊的花束を呼びかける。

2. 来年度行事について（来年度の信者会総会は5/21の予定）

希望する行事があればお申し出ください。

3. 一人一役グループの活動計画について

各グループで3月末までにミーティングを開き、活動計画と予算を検討する。

4. 来年度役員について

副会長の松尾さんが4月に転出予定あり。会長も4年間続けている。役員の補充及び拡充を図りたいので、男女を問わず推薦をお願いしたい。

5. その他

(1) 今後の予定

2/18 役員会・ボランティア交流会 3/1 灰の水曜日（四旬節）

3/3 アンナ・ヨアキム 3/5 ファミリアコンサート

3/11 ワックスかけ 3/12 拡大信者会・バザー委員会

3/20 福岡教区司祭叙階式（広島教区ロイ助祭の司祭叙階式：岡山教会）

3/26 今田神父様送別会（ヒルデン神父様の歓迎会は復活祭パーティで予定）

4/9 受難の主日黙想会（指導：レデンプトル会 キップス神父様）

(2) ファミリアコンサート当日のスタッフ応援要請について

受付係り：前田（美）さん、前田（史）さん、川原（圭）さん

案内係り：今野さん、他

駐車場係り：峰（昭）さん、峰（和）さん、他 幼稚園の駐車場も使用可能

軽食コーナー終了後に打ち上げを予定しています。

掃除は全て終了後に皆で協力して行う。



Jan. 15

アウグスチノ修道会
総長様、副総長様

ようこそ 笹丘教会へ



ミサのあと、ホールにて
新年会 & 総長様方の歓迎会。

アレハンドロ
アントン 総長様



大きな手が印象的でした



アンソニー・
バンクス
副総長様



イクメントリオ?!の歌



岩本さんによるお琴演奏



最後はみんなで「アメンハレルヤ」!



子どもたちからも
歌のプレゼント

ありがとうフランシスコ神学生

フランシスコ神学生は1月22日(日)で
笹丘教会での司牧実習を終えられました。



最後にインタビューをしました。

メキシコの宣教師が初めて日本に来てから60周年を迎えます、メキシコには
グアダルupesの聖母があります、などたくさんの知識をお話してくださいました。ここ
にまとめることができません。

フランシスコ神学生は日本に来て3ヶ月は東京にいて、2年間は名古屋で日本語の勉
強をされました。

――笹丘教会で驚いたこと――

子どもが多いのでびっくりしました。日本で初めて経験した教会は年配の方ばかりで
した。笹丘は子ども、若者、大人のバランスが取れていると感じました。子どもの
侍者がいるのにも驚きました。それぞれの活動の場でそこのメンバーの方からサポー
トしていただきました。

――困ったこと――

・答唱詩編です。音符が読めませんでした。ギターは弾けるけど音符を読む教育は
特別な人しか受けていません。練習の時、耳で聴きとって歌いました。

・子どもたちの会話を理解するのが難しかったです。大人の言葉遣いとは違うので
・・・笑ってその場を過ごしました。また、子ども、若者の興味、社会感がつかめ
ませんでした。好きなもののテーマを聞いても、答えが返ってこなかったのが難しか
ったです。

――福岡に来ておいしいと思ったもの――

お米！ご飯がおいしい。どこで食べてもそれは言っていました。

お刺身！まぐろ、いか、・・・おいしいですね。

日本全体で言えば焼き鳥が好きです。大阪の箕面市付近に好きな焼き鳥屋さんがあり
ます。こじんまりとしていて、こちらの気持ちに寄り添うようなおもてなしを受けま
す。路上生活をしている人々をまわって声掛けの活動をした後によく立ち寄りました。
日本酒の熱燗が心にしみました。

――メッセージ――

ありがとうございました！！

日本の東北地方では信者さんが減りつつあります。どうか東北のために祈って下さい。





信仰のルーツ



私の祖先 私を創った人々のルーツを語る

---- その1 ----

タイトルは「信仰のルーツ」である。だからそのことを書かなければならない。当たり前だがしかし困った。私自身、人に語れるどころか蚤の鼻糞ほどの信仰も持っていないことは充分自覚している。

何の神様の気紛れか、日本でもごく少ないカトリックの家庭に生まれ、生後数日で（本人の意思に係わらず）洗礼を受け、親に引きずられながら教会へ通った。ここまではよく聞く話である。しかし、大人になり気が付けばそれなりにいっぱしのカトリック信者となっている人が多い。だが同じような環境に育っても、ごくまれに私のような超捻くれ者が出来上がってしまうこともある。そんな人間がこのような場で軽々しく私事を披露することで、これまで素晴らしい原稿を寄せてくれた方々、それらを読んで感涙し自らの信仰生活の縁（よすが）とされてきたカトリック笹丘教会の佳き皆さま方の、躓きとなってはならない。なってはならないので、誠に勝手ながら今回は「私のルーツ（私を創った人々）」に絞って書かせていただこうと思う。ただし、何分私を創った人々なので、中にはキャラクターの濃い人もいるし、また逆に（不思議なことに）信仰に篤い人もいる。神の計らいは限りなし。

キャラクターの濃い人その一、父方の祖父で名を善之助という。除籍簿によると明治22年西彼杵郡外海黒崎村に生まれている。年代から、ド・口神父様から洗礼を授かったと思われる。明治24年善之助2歳のとき、父の吉次郎は家族を連れて北松浦郡の田平に移住する。田平はド・口神父様が外海の貧しい信者達のために、私財を投じて買い上げた開拓地だった。ともに移住してきた信者達とともに、吉次郎は文字通り身を粉にして働いた。働いて働いて、働きながら同時に教会を建てるために煉瓦を焼いた。仲間の信者達も皆同じように、僅分の時を惜しみながら働き、御堂を造った。その親の姿を見ながら育った長男善之助、さぞ立派な信者となって家を継ぎ、共同体の一員となり教区と家族のために生きていくことだろうと皆信じていた。

二十歳を超えた善一郎、当然ながら縁談が持ち上がる。相手は同じくカトリックの家の娘で、後に枢機卿となる人物を出す一族だった。話はとんとん拍子に進み、結婚式まであと数日となったある日、善之介は家出する。「百姓が嫌だった」と言う理由で。（以下来月号に続く）

編集後記

先月、原爆が落ちた夢をみた。投下された位置からは、随分と余裕がある距離ではあったが、爆風で飛ばされ、放射能を浴び、もう逃げる余地はないと絶望を感じていた。それと同時に、家族も仕事仲間も、皆死ぬことで、全ての責任から解放されると言うホッとした感があった。この夢から、自分の心の中は家族を守ることの責任がかなりのウエイトを占めていることを実感した。

「重荷を負うものはみな私のもとに来なさい」(マタイ11. 28)。このことばがきっかけで受洗にまで至ったと言う人の話があった。その通りだと思った。神様から見守られていると言う安心感ほど自分を強くするものはない。他人からなんとわれようと関係ない。強くありたい。

神様ありがとうございます、これからもよろしくお願いします。 (J.N)